

最終選考委員から

作家	<div><div>いしいしんじ</div></div>	
----	--	---------------

いしいしんじ

京都とは、町の名でも地名でもなく、それ自体がいまも進行しつつある物語なのだと日々感じます。京都を舞台に、とか、京都をテーマに、とか、情緒とか歴史とか京雅とか、まったく気にしないでOKです。生き生きと脈動する、あなただけの大切な物語をお待ちしています。

京都大学文学部仏文学科卒。1994年『アムステルダムの犬』でデビュー。『麦ふみクーツェ』(坪田譲治文学賞)、『ある一日』(織田作之助賞)、『悪声』(河合肇雄物語賞)など著作多数。21年『源氏物語』の「京ことば」訳『げんじものがたり』、22年『書こうとしない「かく」教室』刊行。

作家	<div><div>井上荒野</div></div>	
----	--	---------------

井上荒野

「京都! 京都!」と意気込んで書いていただいてもちろんかまわないのですが、その前に「小説! 小説!」です。それから「京都! 京都!」です。この順番が正しいのではないかと個人的には思っています。同じ小説を書く者として嫉妬させられるような作品をお待ちしています。

成蹊大学文学部卒。1989年「わたしのヌレエフ」(フェミナ賞)でデビュー。『切羽へ』(直木賞)、『そこへ行くな』(中央公論文芸賞)、『赤へ』(柴田錬三郎賞)、『その話は今日はやめておきましょう』(織田作之助賞など著作多数。22年『生皮——あるセクシャルハラスメントの光景』刊行、著書『あちらにいる鬼』は同年映画公開予定。

作家・評論家	<div><div>校條剛</div></div>	
--------	---	---------------

校條剛

京都というと、懐石や割烹などの和食がまず頭に浮かぶかも知れません。しかし、京都は実はパンの消費量が全国でも有数のパン食文化の土地ですし、「京都中華」という独特の料理ジャンルもあります。食べ物一つにも、このように多様化している京都からあなたは何を見出してくれるのか、それが一番の期待です。

早稲田大学第一文学部卒。「小説新潮」編集長時代に、様々な文学賞を創設。元京都造形芸術大学文芸表現学科教授。著書に『ぬけられますか私漫画家 滝田ゆう』(大衆文学研究賞)、『ザ・流行作家』、『作家という病』、『にわか(京都人)宣言』など。

●表紙1枚目ー3枚目(京都文学賞ホームページからダウンロード)に記載する必要事項

*あらすじや文字数の記載漏れがないよう御注意ください。

表紙1枚目	表紙2枚目	表紙3枚目
<ul style="list-style-type: none">応募区分 <ul style="list-style-type: none">中高生部門は生年月日、海外部門は国籍も記載 タイトル あらすじ(800字以内)	<ul style="list-style-type: none">ペンネーム(ふりがな) <ul style="list-style-type: none">*ペンネームがない方は、本名 作品のジャンル (純文学、ミステリー、ホラー、SF、ファンタジー、歴史、時代、青春、恋愛、その他) <ul style="list-style-type: none">* 御自身の作品に一番近いものを1つ選択してください。 作品の総文字数 <ul style="list-style-type: none">(中高生部門は、400字詰(20字×20行)原稿用紙換算枚数) 略歴(学歴、職歴、筆歴など) 生年月日(西暦で記載)[一般・海外部門の方は任意] (応募作品の掲載歴等がある方のみ)掲載したURL又は発表した同人雑誌、自費出版物等の名称	<ul style="list-style-type: none">本名(ふりがな) 住所 電話番号 Eメールアドレス 性別[任意] 職業[任意] 京都文学賞に関するアンケート[任意]

応募締切

●令和5年5月12日[金]20時 まで

郵送の場合は、5月12日[金]消印有効 | WEBの応募フォームの場合は、上記日時まで

最終選考委員

いしいしんじ(作家)、井上荒野(作家)、校條剛(作家・評論家)、読者選考委員の代表ほか

賞の内容

一般部門	最優秀賞1点：賞金100万円、出版化	優秀賞1点：賞金50万円
中高生部門	最優秀賞1点：図書カード10万円分	優秀賞1点：図書カード5万円分
海外部門	最優秀賞1点：賞金10万円	
<p>上記の賞のほか、新たな賞を検討しています。詳細が決まり次第、発表させていただきます。</p>		

発表

一次選考　令和5年7月下旬に、選考結果を京都文学賞ホームページ上にて発表します。

二次選考　令和5年9月下旬に、選考結果及び簡易な選評を京都文学賞ホームページ上にて発表します。

最終選考　令和5年12月ー令和6年1月頃に、受賞者へ直接通知するほか、選考結果及び選評を京都文学賞ホームページ等で発表します。

表彰式

令和6年1月(予定)　京都市内の会場にて、受賞者のほか、選考委員等を招いて実施します。

応募作品の著作権等

- 応募作品の著作権は応募者に帰属するものとします。
- 受賞作品については、そのあらすじや作品の一部を主催者のホームページや新聞、その他の発行物において掲載することがあります。
- 受賞作品の出版に当たっては、著作権を持つ応募者が出版を希望する協力出版社からの提案を基に、実行委員会と協議のうえ、出版社を決定するものとします。
- 選考及び記録に必要な範囲で主催者において応募作品を複製することがあります。

注意事項

- 応募は一人一編とします。
- 応募後の作品の訂正、返却依頼は受け付けません。必要があれば予めコピーしておいてください。
- 作品の選考に関するお問合せには応じられません。
- 応募により得た個人情報については、本文学賞に関するもの以外には使用しません。

| 作品募集要項 |

募集作品

- 京都を題材とする「小説」とし、純文学、時代小説、ミステリー等ジャンルは問いません。
- 日本語で書かれた自作の作品で、未発表のものに限ります。(ただし、インターネット上で掲載された作品や、同人雑誌、自費出版物等で発表された作品については、営利を目的としていないもの限り、未発表とみなし応募を受け付けます。その場合、必ず掲載又は発表した媒体名を明記してください。)
- 他の文学賞との二重投稿及び過去に入選した作品の応募は禁止します。
- 第三者の著作権、その他の権利・利益を侵害したり、そのおそれがない作品に限ります。
- 引用文献や参考文献がある場合、その出典等を必ず明記してください。

応募区分・資格

- 「一般部門」「中高生部門」「海外部門」の3部門を設け、プロ・アマを問わず、国内外から作品を募集します。
- 「一般部門」については、年齢・国籍を問わず、高校生以下の方や外国籍の方も含めどなたでも応募することができます。
- 「中高生部門」については、2004年4月2日以降に生まれた方を対象とします。
- 「海外部門」については、留学生をはじめ外国籍を有する方を対象とします。

応募規定

作品分量		*ルビ、注釈、参考文献は文字数に含みません。
一般部門	手書き原稿不可	28,000字以上 160,000字以内
中高生部門	手書き原稿も可	手書き原稿の場合 <p>400字詰(20字×20行)原稿用紙で、20枚以上150枚以内</p> <p>パソコン原稿の場合 <p>400字詰(20字×20行)原稿用紙に換算し、20枚以上150枚以内</p> <p>*提出原稿は以下の書式(30字×40行)を使用のこと</p></p>
海外部門	手書き原稿不可	8,000字以上60,000字以内

原稿の書式	
パソコン原稿	A4判、横長、マス目なし/30字×40行/縦書き <p>*京都文学賞ホームページからダウンロード可</p>
手書き原稿(中高生部門のみ)	A4判、横長/400字詰(20字×20行)原稿用紙/縦書き <p>*消せるボールペンや鉛筆での記入は不可。濃くはっきりと読める字で丁寧に記してください。</p> <p>*誤字脱字、表記ミスなどの確認のため、作品を読み返してから御応募ください。</p>

- 作品本文ページの左下に通し番号(ページ番号)を入れ、郵送の場合は右肩をクリップで綴じてください(ホッチキス留めは不可)。
- 中高生部門・海外部門で御応募いただいた作品が、一般部門の作品分量を満たしており、かつ最終選考まで残った場合、最終選考委員の意見により、一般部門において選考を行うことがあります。

応募方法

- 応募方法はWEBの応募フォーム(京都文学賞ホームページに設置)又は郵送のいずれかとします。

WEBで応募する場合	応募フォームに必要事項を入力の上、作品及び右記の表紙1枚目(あらすじ等)を添付し提出してください。作品のファイル形式はWord又はPDFで添付してください。
郵送で応募する場合	作品原稿の上に、右記の表紙1枚目ー3枚目を添えてお送りください。

気候変動、武力紛争、コロナ禍など、現代は一歩先が見通せない「不確実な時代」と言われています。京都文学賞は、平成三十年の「世界文化自由都市宣言」四十周年を契機に創設されました。宣言では、京都(「世界文化自由都市」を「全世界のひとつが、人種、宗教、社会体制の相違を超えて、平和のうちに、ここに自由につどい、自由な文化交流を行う都市」と謳っております。まさに今、こうした理想の追求が求められるのではないのでしょうか。真摯に紡がれた文学や小説には、困難に立ち向かうための手掛かりや新たな問いが織り込まれているに違いありません。令和三年度の第三回京都文学賞では、国内外から三部門合わせて二七〇作品もの御応募を頂き、一般部門で『備忘六』(出版化調整中)、中高生部門で『闇に浮かぶ浄土』(祥伝社から刊行予定)が最優秀賞に輝きました。第四回となる今回は、募集から選考・表彰まで二箇年の運営スケジュールに変更することで、より丁寧な選考を実現し、京都文学賞の価値を更に向上させるため、新たな賞の創設を検討しています。これまでの受賞作に続き、読む人に「こういう世界／京都もある」と自由で多様なあり方を示し、「明日も生きよう」と思わせるような、確かな未来を生み出す作品を心からお待ちしています。